

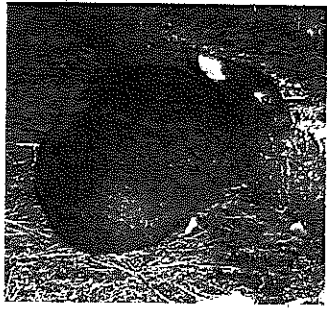
アマミノクロウサギ 保護に寄付1300万円

鹿児島・奄美大島に生息する絶滅危惧種「アマミノクロウサギ」を守るため、生息地の土地を買い取る公益社団法人「日本ナショナル・トラスト協会」(本部・東京)の取り組みに、大手企業や個人から多くの寄付が集まっている。同協会は今年1月に島南部の森林約100万平方メートルを購入し、これまでに購入費の7割にあたる約1300万円

が集まった。同協会は「さらに多くの企業とクロウサギの保護に取り組みたい」と話している。

同島を含む「奄美・琉球」(鹿児島県、沖縄県)は、政府が国内5番目の世界自然遺産の登録を目指している。環境省は「民間の保護活動の広がりには貴重だ」と歓迎している。

同協会は、寄付による基



アマミノクロウサギ
(環境省提供)

■アマミノクロウサギ

鹿児島県の奄美大島と徳之島の固有種。体重は1300〜2700gで、体長41〜51センチ。耳と四肢が短いのが特徴。外来種のマンガースや野犬などに襲われて数が減り、環境省レッドリストでは「近い将来、野生での絶滅の危険性が高い」とされている。

金を元に土地を買い取る方法で、自然環境の保護を進めている。これまでに富士山高原(山梨県)、安曇野の森(長野県)など17地域の所有者となった。

18か所目となる今回は、同島・瀬戸内町の森林を1月に約1800万円で購入。3月4日から28区画に分けて、寄付を募っている。

同協会によると、3月末までに、同島に乗り入れている日本航空が約300万円、大手ゼネコンの大成建設が約60万円の寄付を決め、大手銀行なども参加。

個人は8人が寄付したという。日本航空は「奄美の自然は魅力的な観光資源。企業として保護に協力したい」と話している。

寄付目標額は、維持管理費などを含めて2000万円。協会に残る6区画(65万〜189万円)と、一口1000円の寄付も募っている。

問い合わせは同協会(☎03・5979・8031)へ。